

職員による自己評価

A 環境面

- 利用定員・スペースの関係は概ね適切。エレベーターがあることでベビーカーでの来所もできる。
- 職員配置は60%が適切と考えている。
- 自己評価シート意味と結果の行方について未周知
- 研修の機会は設けられている

B 児童への支援内容

- プログラムの固定化はないが、チーム全体での立案する意識は希薄。
- 日々終礼を行い気が付いた点を共有し、支援について記録を取っている。個別活動と集団活動を組み合わせて、計画を作成している。

C 関係機関との連携

- 外部と交流をする機会はない。
- 保護者との共通理解はできている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- 保護者への説明責任や助言・支援については概ね適切。
- 会報などで情報を発信している。
- 個人情報の扱いは慎重に行っている。

E 非常対応

- 避難訓練を行っているが職員の意識は高くない
- 社員レベルで情報共有はできているがパートアルバイトレベルは不十分

保護者による評価

A 環境面

- 活動スペースは十分に確保されている。
- 職員の配置数・専門性は適切である。

B 児童への支援内容

- サービス計画は支持されている。
- 活動プログラムの固定化はない。特別プログラムが支持されている。
- 外部との交流は1/3が「いいえ」と回答。必要ないという意見もある。

C 事業所からの情報発信

- 子どもの発達状況や課題についての共通理解は100%が「はい」と回答。SSTで必要な支援をしているという意見がある。
- 保護者に対しての面談や助言についての支援ができているかについて100%が「はい」と回答。テスト前の助言などの意見がある。
- 保護者会の実施については「個人利用なのでなくてよい」「ニーズがあるかどうか」「コロナ禍なので仕方ない」という意見がある。

D 非常対応

- マニュアルについては概ね周知・説明されている。
- 避難訓練を行った情報を発信することが必要。

事業所内での分析

【共通点】

- 活動プログラムや固定化については保護者・職員共に適切と判断している。
- 保護者への説明責任・信頼関係は保護者・職員共に適切と判断している。
- 非常時の対応について職員の意識は高くなく、保護者へ伝わっていない。

【相違点】

- 保護者はマニュアルの周知をされていると感じているが、職員の意識が希薄
- 活動プログラムの固定化はないが、保護者の中には参加メンバーの固定化で見通しをつけやすくしたいという意見もある。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 環境面が良い。
- 活動プログラムの固定化などがなく、個別活動と集団活動を組み合わせている。
- 保護者への説明責任を果たし、相互の信頼関係を築いている。
- 会報などで定期的に行事予定や、連絡体制の情報を発信している。

事業所の改善点

- 職員間でのマニュアルの周知の向上。
- 「必要がない」「子どものニーズによる」との意見もあるが外部との交流が少ない
- 「必要がない」「ニーズがない」という意見もあるがコロナ禍のため保護者会が行えていない。
- 研修や防災訓練を実施しているが、周知されていない。伝える努力が必要。

事業所の改善への取り組み

- 定期的に SST の時間に防災訓練を実施しているが、ホームページや会報等での発信がまだ甘いためお知らせを強化する。
- 事業所内での研修・勉強会の場を設け、職員の意識を上げる。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

活動プログラム、支援内容において保護者からのご理解と評価があると感じている。今後さらに発展をするために職員間での共通理解と研修・勉強会などの機会を設けられるよう努めたい。

一方で、定期的に行われている防災訓練などの発信が保護者へ届いていないことを感じたため、会報・連絡帳以外の方法でも伝えていけると良い。cheerS は個別部としてマンツーマン支援を行っているが、SST 等小集団での集団生活スキルの向上も必要と考えている。今後、SST で対人関係スキル・生活スキル・問題解決スキルなどの向上を目指したい。

事業所名 放課後等デイサービスクリームソーダ cheerS

担当者 脇田 卓弥